

## マタイによる福音書4章12節のみ言葉について

この箇所はヘロデが、弟の妻を自分の妻にしてしまったことを諫めたバプテスマのヨハネを投獄した、と聞いてガリラヤに行かれる場面ですが、新共同訳聖書では以下のようになっています。

「4:12 イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。」

このうち、「退かれた」という言葉から連想すると、あたかも、イエス様は難を避けて、ガリラヤへ逃避されたともとられかねないのですが、実はまったくその逆で、ガリラヤはこのヘロデ（ヘロデ大王の息子）が領主をつとめ、厳しい影響力を持つ地であり、逃避どころか、逆にヨハネの教えに従う人たちが戦々恐々とした地でもあり、イエスさまは、そこで、あえて伝道するために行かれたということです。いわば挑戦的でもあり、このガリラヤで神様のみ教えが消えかかろうとしているところに敢えて、伝道のために向かわれたことを意味しています。またこのことはイザヤ書4章15節のことばが成就するためでもありました。

4:15 「ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、

4:16 暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」

4:17 そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

ところで、この「退かれた」と訳されているギリシャ語ἀναχωρέω (アナクソーレオー)という言葉には「withdraw(退く)」という意味の他に「depart(出発する、去る)」と言う意味もあり、英語訳聖書ではKJV (ジェームズ王欽定訳) やティンダル聖書ではdeparted into Galileeと訳しており、またThe New Testament: A Translation in the Language of the People (Charles B. Williams)では“set out for Galilee” (ガリラヤに向けて出発された) と訳されていますので、この方が分かりやすいかも知れませんが、「withdraw(退く)」は「エルサレムの中央集権から離れて地方に行かれる」との含みがあるのかも知れません。

以上